様式第３号

研修報告書（研修費）

平成３０年１１月１２日

長久手市議会議長
　　川　合　保　生　様

長久手市議会議員　ささせ　順子　㊞

政務活動費を充てることができる経費の範囲の運用指針により次のとおり届け出ます。

年　月　日	平成３０年１０月１２日（金）から 平成３０年１０月１３日（土）までの　２日
研　修　先	日本女性会議 2018in 金沢 テーマ 基調報告「フェアネスの高い社会の構築」 講師/内閣府男女共同参画局長　池永　肇恵 分 科 会 「一人ひとりが大切にされる防災・ 減災のまちづくりをめざして」 ～かけがえのない“いのち”に寄り添う～ コーディネーター/北陸学院大学教授　田中　純一 会場　　金沢歌劇座・金沢市教育会館 （行程表は別表のとおり）
成　　果	別紙のとおり
経　　費	金　２８，６７０円（政務活動費対象経費） 金　２８，６７０円（全体経費） （明細は別添のとおり）
提 出 資 料	○領収書の写し

※研修を実施した後は議長に１カ月以内に提出するものとする。ただし、１カ月以内が翌年度の４月２０日を経過する場合は２０日までとする。

行　程　表

日本女性会議　２０１８　金沢

平成 30 年 10 月 12 日（金）

7:45　地下鉄　8:50　JR 特急しらさぎ 3 号　11:48　北陸鉄道バス

藤が丘駅　→　名古屋駅　→　金沢駅　→　本多町　→

13:00～14：00　送迎バス　15：00～17:00　北陸鉄道バス

金沢歌劇座ホール　→　教育会館前　→　教育会館　→　香林坊　→　金沢駅　→

→　ガーデンホテル金沢

平成 30 年 10 月 13 日（土）

8:30　北陸鉄道バス　9:30～16:00

ガーデンホテル金沢　→　金沢駅　→　本多町　→　金沢歌劇座ホール　→

北陸鉄道バス　16：48JR しらさぎ 14 号　JR 新幹線ひかり 532 号(18：57)　19：25

本多町　→　金沢駅　→　米原駅　→　名古屋駅　→

地下鉄　20:00

→　藤が丘駅

費　用　明　細

藤が丘 ⇔ 名古屋	600	地下鉄
名古屋 → 金沢	7，330	JR しらさぎ 3 号（指定席）
金沢 → 本多町	200	北陸鉄道バス
金沢歌劇座ホール → 教育会館前	0	送迎バス
香林坊 → 金沢	200	北陸鉄道バス
金沢 ⇔ 本多町	400	北陸鉄道バス
金沢 → 米原	7，240	JR 特急しらさぎ 14 号
米原 → 名古屋		JR 新幹線ひかり 532 号
ガーデンホテル宿泊代	9，200	
大会参加費	3，500	
計	28，670	

議員個人研修報告書

ささせ　順子

日本女性会議 2018 in 金沢実行委員会・金沢市主催「日本女性会議」を下記日程にて参加しましたので報告いたします。

〇日程　　平成 ３０年１０月１２日・１３日

〇会場　　金沢歌劇座・金沢市教育会館

〇プログラム

基調報告「フェアネスの高い社会の構築」

講師/内閣府男女共同参画局長　池永　肇恵

分 科 会　「一人ひとりが大切にされる防災・減災のまちづくりをめざして」

～かけがえのない“いのち”に寄り添う～

コーディネーター/北陸学院大学教授　田中　純一

パネリスト/

NPO 法人レスキュー・ストックヤード常務理事　浦野 愛

金沢市長土塀自主防災会　花岡 暁子

金沢市三馬地区防災士会　竹田 雅子

〇所　感

初日から分科会を中心に、各テーマ別に分かれて進められた今年の女性会議は、多様化する社会的課題への女性の関わり方について、分野ごとで変化する「性差と役割」への固定概念を外し、新しい価値観について再考する機会となった。

私が選択した「分科会１　防災・まちづくり」では、同分科会の進行役で唯一、学識経験者として参加されたコーディネーターの田中教授が、様々な被災地を研究する中で至った１つの結論として、『災害は社会や地域の脆弱な部分に集中的に被害をもたらす』・『災害直後から長期にわたり「弱者」を生み出し続ける』と示し、災害弱者となりがちな障がい者、子ども、女性に焦点を当てた議論が交わされた。

田中教授は現在、あらゆる市町において防災・減災への取り組みが行われている事

に触れ、注視すべき地域課題はそれぞれに違いがあるが、大きな被害をもたらす「脆弱さ」を引き起こす問題点とは、“必ず日常的な課題として露呈している”と断言していた。生きた防災対策への道のりとして、その「脆弱さ」を地域住民が正しく理解し、共有する事が必要であり、普段から溝を埋めていく作業の積み重ねが今後、「必ず起こる」とされる巨大地震に対して出来うる適切な防災対策になる事を改めて確認した。

長久手市における地域課題は「地域によって市民同士（コミュニティ）の交流に温度差がある」点と私自身は捉えているため、日常的な市民同士の繋がりにはどのような発露や働きかけが有効か、実際に避難所運営を経験したパネリストの視点は非常に参考となった。

パネリストの 3 名はそれぞれに立場や役割は違ったが、「女性の視点で災害対策を捉えている」、「被害の不平等性の克服に向けた取り組みをしている」点は共通していた。特に災害時要配慮者をめぐる諸課題への対策は、自然災害が頻発していても確実に前進している訳ではなく、公的機関だけで対応しきれるかについても予測が立てにくいため、地域を知り、人を知る住民たちが「現実的にどう動けるか」が新たな災害弱者を生まない重要なポイントとなる。女性の立場で被災地の避難所運営を経験したり、未災害地で自主防災会・子ども会を通した避難所設置に挑戦する中で彼女たちが同様に口を揃えたのは、問題解決に必要不可欠な「活力」となるのは、目に見えて理解されやすいハード面の整備より、「人」が生み出す想像力や発想力といったソフト面であり、その土地に愛着を持てる人が沢山育つまちづくりが平時から求められるという事であった。

また、避難所開設や避難所運営において新たな試みを実行する際、これまでのように「公が取り仕切る」という発想を捨て、思い切って住民を代表とするキーマン、又は協働先の団体へ託すことにより思ってもみなかった人材の発見や付加価値が生まれ、公では及ぶことのなかった仕組みや潮流が派生するケースが多いという点から、長久手市にも早急に取り入れ、トライ＆エラーを重ねて本市に合う形を模索する価値は非常に大きいと感じた。

更に、「性別や立場別による災害時の困難」として、避難所に行けない人々、在宅避難者に対する支援が手薄になりがちな実態についても言及があった。例えばペットがいる・障がいのある家族がいる等の理由で、水や電気のない自宅で生活を続ける住民が一定数出てくる事は避けられない為、女性の防災リーダーや自治会長を置く事で災害時の物資配布等に、きめ細やかに行き渡る体制が敷かれるケースが非常に多かった事例が示された。

この１０月に開催された名古屋大学の福和教授の講演会では、今後１７年以内に南海トラフ地震が必ず起こると述べられており、一層の防災対策が進められているが、避難所は「出来れば避難したくない場所」と感じている割合が多いのが現状である。分科会のサブタイトルにも挙げられた、「一人ひとりが大切にされる防災・減災」という発想は、従来の「人命が助かる」ことに焦点が当てられた防災対策とは大きな差があり、それ故に様々なハンデを追う弱者は声をあげられず、二次災害を引き起こす原因となってきた。また、被災時に於いて女性の役割を考えた時、主に避難所の掃除や炊き出し、子どもの世話等が挙げられるが、「声をあげにくい想い」に想像力を馳せることのできる、きめ細やかな配慮が出来る女性がリーダーとして活躍できる枠組みを整えていくことが不可欠であり、長久手市民にとって真に安心できる防災・減災対策に繋がると感じた。

今回の女性会議に参加して、世界的に価値観が多様化し、男女に求められる役割が今後は益々平準化していく事を強く認識した。女性の良さ、男性の良さを最大限に生かし合い、支え合いながら社会に蔓延する諸課題の解決に向けて前進出来るよう、本市への働きかけに着実に織り込んで行きたいと感じた。

以上